

6 モデル校実践報告 [大崎市立鳴子中学校]

(1) 実践概要

本校の生徒は素直で素朴であり、学習、生活の両面で指示されたことにきちんと取り組もうとする生徒が多い。授業への取組も真面目で、落ち着いて教師の話聞き、課題に取り組む姿が見られる。実態調査の結果からは、将来について考えることの重要性を理解し、希望の進路を叶えるためには勉強が不可欠であると考えている生徒が全体の9割以上を占めることが分かった。また、夢を叶えるためには今から努力すべきだと考える生徒も9割を上回るなど、学習の意義や目的を理解し、現在の頑張りが将来に直結すると考える生徒が多いことが伺える。

その一方で、勉強が楽しいと感じている生徒は全体の4割に満たず、学校以外での1日の勉強時間については、約8割の生徒が1時間未満、あるいは1～2時間と答えた。学習の悩みについて、「テストでよい点がとれない」と答えた生徒が約7割存在することからも分かるように、生徒の学習に対する消極性を解決することは本校の喫緊の課題である。

そのような実態を踏まえ、本校では、基礎的・基本的な知識や技能を習得し、自信をもって学習する生徒を育むことを目指し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりに取り組む。

(2) 平成30年度の取組の概要

重点的な取組内容	<p>(1) 専門家による研修会の実施 (2) ユニバーサルデザインの視点を生かした校内授業研究会</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p>〈研究主題〉 一人一人の主体的な「学び」を育む指導の研究 ～ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりを通して～</p></div> <p>【5月】数学（1学年） 【7月】数学（1学年） 英語（3学年） 【12月】国語（1学年）</p>
成 果	<p>(1) について ユニバーサルデザインの考え方や合理的配慮について指導を受け、学級経営や授業での学習指導において、実践できそうな具体的な手立てについて、全教員で考えることができた。</p> <p>(2) について ピクチャーカードや4コマ漫画などで学習内容を視覚化したことが、生徒の理解や学習の動機付けにつながった。また、習熟度に応じた課題やヒントカードを用いたことで、生徒は安心感をもって学習に取り組むことができた。</p>
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none">・ユニバーサルデザインの手法についての研修の充実と一層の理解・ユニバーサルデザインの視点を生かした校内授業研究会の充実・個別に支援が必要な生徒の確認とその具体的支援の工夫

(3) 令和元年度の取組の概要

<p>重点的な 取組内容</p>	<p>(1) 専門家による研修会の実施 (2) ユニバーサルデザインの視点を生かした校内授業研究会</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈研究主題〉 ユニバーサルデザインの視点を生かした 主体的な「学び」を育む指導の研究 ～効果的なねらいの提示による授業づくり～</p> </div> <p>【5月】数学（2学年），【7月】英語（1学年），【10月】音楽（1学年） 【11月】社会（1学年），【12月】数学（2学年）</p>
<p>成 果</p>	<p>(1)について 個別の支援が必要な生徒について，個別の教育支援計画・指導計画を基に実態把握を行った。また，各教科の授業における姿や生活行動の傾向などを全教員で確認した上で，専門家チームの見地から生徒に関する分析，合理的配慮等の具体的支援方法などに指導を受け，通常の学級での指導や授業づくりに生かすことができた。また，ユニバーサルデザインの考え方や発達障害の生徒の認知特性，学びにくさについて理解が深まった。</p> <p>(2)について ねらいの提示の工夫について各教科で実践を行った。ねらいを明確に提示することで，生徒は授業の見通しをもち，安心して学習を進めることができた。授業検討会では，ねらいを提示すること，それを授業中常に見えるようにすることの重要性について共通認識をもつことができた。また，焦点化，視覚化，構造化，共有化などのユニバーサルデザインの視点に基づいた授業が，学習内容の理解や生徒の意欲の喚起につながると実感することができた。</p>
<p>次年度の 課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握と個に応じた指導の在り方についての理解 ・授業におけるユニバーサルデザインの具体的手立ての工夫（ヒントの提示の仕方やタイミング，グループ活動のグループ構成等） ・ユニバーサルデザインの視点を生かした校内授業研究会の継続

(4) 令和2年度の取組（まとめ）

<p>指導目標</p>	<p>(1)ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりを通して，生徒の主体的な「学び」を育む。 (2)手がかりの与え方を工夫し，分かりやすい授業づくりを目指す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈研究主題〉 ユニバーサルデザインの視点を生かした 主体的な「学び」を育む指導の研究 ～分かる・できるにつながる“手がかり”の与え方の工夫を通して～</p> </div>
<p>指導目標に 対する主な 手立て</p>	<p>(1)生徒にどのように学習が進むのか見通しをもたせるために，授業の始まりにその時間の活動内容を提示する。 (2)学習内容の理解を促すために，ICT 機器やピクチャーカード，具体物などを活用したり，実生活に関連付けたりしながら指導する。 (3)生徒の学習への苦手意識を緩和し，つまずきを防ぐとともに，主体的に学習を進めさせるために，ヒントの提示のしかたやタイミングを工夫する。</p>

経過	<p>【8月 校内授業研究会①（数学・知的学級2学年）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概数を用いて和や差を見積もることができるようにさせるために、買い物の場面を取り上げ、実際に生徒にゲームとして体験させた。 <p>【9月 校内授業研究会②（大崎市指導主事学校訪問 国語・2学年）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の主張に説得力をもたせるために、他の立場への反論を考えさせた。反論のポイントを黒板に常時掲示し、生徒が適宜確認しながら取り組めるように工夫した。さらに反論の良い例と悪い例を提示し、違いを考えさせた。 <p>【9月 校内授業研究会③（数学・3学年）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関数 $y=ax^2$ を理解させるために、ジェットコースターの映像を用いた。上る場面と下る場面を見せることで、生徒に比例との違いを視覚的に捉えさせた。 <p>【11月 校内授業研究会④（公開授業研究会 社会・2学年）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国の近代化について、学習のながれを分かりやすく、振り返りをしやすくするために、板書を工夫した。 <p>【11月 校内授業研究会⑤（公開授業研究会 英語・1学年）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・where の疑問文の意味と用法を理解させるために、具体物を操作しながら行うかくれんぼを取り上げた。 <p>【11月 校内授業研究会⑥（北部教育事務所訪問 保健体育・1学年）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マット運動について、生徒に正しい形を意識させ、動きのポイントを理解させるために、ICT 機器を用いて動画を撮影し確認し合いながら練習させた。 <p>【12月 校内授業研究会⑦（理科・1学年）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の大きさと振幅の関係、音の高さと振動数との関係に気付かせるために、波形観察装置を活用し、波形をモニターで示した。 <p>【12月 校内授業研究会⑧（社会・1学年）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南アメリカ州について、生徒に見通しを持たせて学習に取り組ませるために、ねらいと学習手段、資料の提示を工夫した。
成果とまとめ	<p>指導目標について</p> <p>(1)について</p> <p>実態調査結果（別紙資料①）では、授業の始めにその時間の学習や活動が分かると授業が理解しやすいと答えた生徒が、全体の7割を上回った。また、モニターやテレビなどで写真や映像を見ながら学習することについて8割を超える生徒が分かりやすいと答えた。学習内容や活動を視覚化、構造化した授業は、生徒の理解につながった。</p> <p>(2)について</p> <p>実生活と学習内容の関連付けや映像や写真の提示など、理解するための手がかりを工夫したことにより、授業が分かりやすくなったことが実態調査の結果から分かった。</p> <p>今後の課題</p> <p>授業や学校以外の場所においても、生徒に積極的に学習に取り組ませるために、家庭学習の仕方を指導したり、課題の与え方を工夫したりするなどの手立てが必要である。</p>

(5)「共に学ぶ教育推進モデル事業」について

ア 個別の支援を要する生徒の実態把握と具体的支援の充実について

- ・ 専門家チームの指導助言について

専門家チームを招いての研修では、個別の支援を要する生徒について、個別の教育支援計画や指導計画に基づいた実態把握と情報交換を行った。また、発達障害がある生徒の認知特性や学びにくさ、支援や指導の手立てへの助言をいただいた。専門家チームの助言者の中には本校の学区内の小学校の特別支援教育コーディネーター、特別支援学校の地域支援コーディネーターもおり、小・中・高校との連携を図ることもでき、発達段階と個々のニーズに応じた支援を行うことの重要性について全教員で共通認識をもつことができた。

- ・ 校内の情報の共有化について

個別の支援を要する生徒について、学級担任、各教科担当、養護教諭など、それぞれの視点から情報交換を行い、実態の把握に努めた。各学級や各教科の授業における取組や課題を話し合い、効果的な手立てやアプローチをそれぞれの指導で実践しようとする意識が高まった。

イ ユニバーサルデザインによる授業づくり

- ・ 教職員の共通理解について

ユニバーサルデザインについて、専門家チームとの研修に加え、計画的に校内研修を実践することで、授業におけるユニバーサルデザインの手法について共通理解を深めることができた。

- ・ 校内授業研究会の充実

校内授業研究会を平成30年度は4回、令和元年度は5回、2年度は8回行った。教員同士が互いの実践について知ることにより、生徒にとっての分かりやすさや学びやすさを追求しながら自分の指導を工夫しようとする意識が高まった。専門家チームを招いての授業研究会では、授業参観後、検討会の中で専門家の見地から指導の手立てについて助言をいただいた。ユニバーサルデザインの視点を取り入れることは、個別の支援を要する生徒のみならず、すべての生徒にとっての分かる喜びや学ぶ意義の実感、学習意欲の喚起につながるとの考えを深めることができた。

3年間に及ぶ校内授業研究会の結果、効果的であった実践は以下のとおりである。

【焦点化】

- 学習の始めに、その時間のめあてを明示する。
- 見通しをもたせるために、学習内容、活動内容、学習手順を提示する。

【視覚化】

- 写真や映像を資料として用い、モニターやスクリーンで示す。
- ノートの書き方や授業の展開をパターン化・ルーティン化する。

【共有化】

- 日常生活や生徒のなじみのある事柄を例に取り上げ、学習内容と関連付けながら指導する。
- グループやペアによる話し合いや、生徒同士の教え合いの機会を設ける。

資料①

生徒実態調査結果 ～授業の分かりやすさについて～

(全校生徒 89名 令和2年12月2日実施)

	分かりやすい (人)	まあまあ 分かりやすい (人)	合計 (%)
①授業の始めに、その時間にどんな学習・活動をすればよいか分かる。	19	47	74.2
②その時間のめあてや目標、ゴールがはっきりとわかる。	19	43	69.7
③授業の始めに、前回の授業内容を復習する。	10	45	61.8
④グループやペアで話し合いながら問題や課題に取り組む。	18	39	64
⑤モニターやテレビで映像や写真を見ながら学習する。	41	33	83.1
⑥日常生活や身近な話題、なじみのある事柄を例に取り上げ、学習内容と関連付けながら学習する。	24	39	70.8
⑦課題についての得意・不得意、学習の理解度によって、取り組む課題を自分で選ぶことができる。	16	38	60.7
⑧授業の内容を理解するために、似たような問題に繰り返し取り組む。	19	32	57.3
⑨ヒントカードや、ヒントが書かれたワークシートを使って学習する。	12	39	57.3
⑩友達に教えてもらったり、アドバイスをもらったりしながら学習する。	24	44	76.4
⑪ノートの書き方が決まっている。	31	42	82.0
⑫授業の最後に、同じような問題を解いて理解を確認したり、自分の頑張りを振り返ったりする。	6	36	47.2
⑬自主学習に先生からコメントやアドバイスをもらう。	43	28	79.8

～授業の様子～

